# 机上の会議

A-naka

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
机上の会議

【Ｎコード】
Ｎ７６８５Ｙ

【作者名】
Ａ－ｎａｋａ

【あらすじ】
”二人組になってください”を真剣に考えました

「会議を始める。本日の議題は”二人組になってください”の解決方法だ。背景は、大学講義のグループワーク演習のさなか。主人公は交友関係のほとんどない大学生。部活・サークルの所属経験なしである。ちなみに大学の男女比は１：１である」

「詰んだな」

「詰みましたね」

「お前ら諦めるの早すぎだろ。だからこその会議ではないか。何か意見はないのか」

「はい」

「うむ、では言ってみよ」

「近くの人に話しかければ…」

「おい、貴様聞いていたのか。主人公の交友関係はほとんどないんだぞ。そんな人間の隣に座る人間なぞおらんぞ」

「つまりこの場合、二人組になる相手を遠くから探す必要があるということですね」

「きついですね。ただでさえ友好関係がない主人公です。相手を探すために教室を駆け回るのは、精神的ダメージが大き過ぎます」

「しかし、いないものはいない。探すしかあるまい」

「いや、まだ方法がある。それも教室を立ち回ることなく、そして何より友達がいなくても二人組になれる方法が」

「なん…だと、それは本当か。申してみよ」

「エア友達ですよ」

「貴様、私を馬鹿にしているのか。何だその二番煎じみたいな発想は…」

「そういう意味で言ったわけではありません。つまり簡単なことだったんですよ」

「ええい、はよ申してみよ」

「一人で二人分働けばいいのですよ。そうすれば別に相手を探す必要もない。そもそも大学生でありながら交友関係も持たない人間は、一人で何でもできると相場が決まってるのですよ」

「こいつ…天才か」

「来年のノーベル平和賞確定だな」

「お前ら、それでは今回の議題の解決方にはならない。あくまでも”二人組になる”ことが必要条件だ」

「なんかややこしくなってきたな。ここでいったん話をまとめるか」

「そうだな。今回の目的は、いかに世間体を守りながら実在する人間と二人組になるかだ」

「どのようにの前に、そもそも二人組の相手はどんな人間がいいだろうな」

「前提として、相手は主人公と同じ組む人がない。主人公と同じ友達がいない人でいいのではないだろうか。同類の方が何かと気が合うのでは」

「意義あり！それでは、互いにコミュニケーションが苦手同士で互いにギクシャクするのでは」

「それには同意だな。それにぼっち同士が二人組を組むのは、傍から見るとね…」

「おい貴様、ぼっちのどこか悪いんだ」

「気持ちはわかるが、社会の評価は厳しい」

「くっそ、これが数の暴力か」

「二人組の相手は、ぼっちを積極的に選ぶ必要はないな」

「誰でもいいということにしましょう。その方が解決策として汎用性が高いわ」

「二人組の相手は誰もいい。問題は他人の評価ということになりますね」

「どのようにすればいいかを考えると、なかなか結論が出ませんので、どのような評価をいただくことが最良なのか考えましょう」

「ぼっちの人間が他人に可哀そうに思われないということですかね」

「そうだね。それこそが今回の論点だと思うね」

「む～～～ん」

「う～～～～ん」

「ないね」

「ないですね」

「おい、ここまで来たんだから諦めるなよ」

「ここまで来ただけでもいいでしょう」

「そうですよ。基本一人でいる人間は、所詮世間では疎くみられるものですよ」

「ですよね～。逆に二人組の相手にひかれてますよ」

「ひかれるといえば、不真面目な人間もそうですけど、くそ真面目な人間もひかれる対象ですよね」

「どうしてだ」

「だって、基本みんなめんどくさがりですよ。楽したいに決まって

るでしょ。それなのに相手がすごい頑張っちゃうんだから、ありがた迷惑ですよ」

「何ということだ。この社会では正直者が馬鹿を見るのか」

「いつの時代もそうでしょ」

「そうなのか」

「ええ、そういうものでしょう、普通」

「ショックだな」

「きっとこの主人公もかつては、真面目な学生時代があったと思いますよ」

「それが今では、まともに二人組を組めないとは…」

「どうすればいいんだ。もうこの問題はこの主人公だけの問題じゃない」

「そうですね。これは全人類に課せられた問題です。後世に生まれる子供たちに、正義というものが何かを残さなければなりません」

「もういっそ、諦めてはどうですか」

「それはどういうことだ。悪に負けるということか」

「いや、違います。他人の評価を気にするのを諦めるということです」

「それは…」

「気持ちはわかります。今まで私たちは何をしていたのかと。しかし、だからこそかもしれません。ここで他人の目を気にしては、世界中にいる正義の子供たちに見せる顔がありません」

「たとえ恥をかいたとしても、馬鹿にされようとも、みじめに思われても、私たちは示さなければならない。ぼっちの勇士を」

「ぼっちの…勇士」

「私たちがここで社会的に死んだとしても、この死は決して無駄にはならない。いつかこの主人公が、こんなくだらないことを議題に出さない社会が来るはずです」

「だから、私たちは屈しない、恥じない、そして負けない姿を見せるべきです」

「そうだな。どうやら、私たちはもう少しで大事なものを失うとこだったな。ありがとう」

「いいえ、こちらこそありがとう。とは言っても私たち全員、頭にいる同じ私たちなんですけどね」

「それは言わない約束だぞ」

「おっと、そうでしたね」

「とにかく、実際の話になると、堂々と”二人組になってください

”と教室を駆け回るということだな」

「シュールだな」

「おい、シュールと言うとな。勇気ある行動と言え」

「すまん」

「会議の結論を出す。結論、勇気を持って”二人組になってください”と言う」

**（後書き）**

初投稿です。普段思っていることを考えてみました。一ミリでも共感くださったらうれしいです。

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7685y/

机上の会議

2011年11月22日23時53分発行